

鹿児島県から得られたタチウオ科魚類 ヒレナガユメタチ *Evoxymetopon poeyi*

畑 晴陵¹・高山真由美²・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

タチウオ科ユメタチモドキ属 (Trichiuridae: *Evoxymetopon*) は両眼間隔域が隆起縁を形成し、眼が頭部背面に近接せず、頭部側面中位に位置する、背鰭に欠刻がない、腹鰭と臀鰭第1棘が円盤状を呈する、および二叉型の尾鰭を有するなどの特徴をもち (Nakamura and Parin, 1993; Fricke et al. 2014), ヒレナガオオユメタチ *E. macrophthalmum* Chakraborty, Yoshino and Iwatsuki, 2006, *E. moricheni* Fricke, Golani and Appelbaum-Golani, 2014, ヒレナガユメタチ *E. poeyi* Günther, 1887, およびユメタチモドキ *E. taeniatum* Gill, 1863 の4種が有効種とされている (Chakraborty et al., 2006; Fricke et al., 2014).

ヒレナガユメタチはこれまで国内において、八丈島、千葉県、静岡県、和歌山県、徳島県、沖縄県、東シナ海、および九州—パラオ海嶺から記録されていた (Abe and Asai, 1975; 山田・工藤, 2012; 中坊・土居内, 2013; 池田・中坊, 2015).

南九州および琉球列島の魚類相調査の一環で鹿児島湾、大隅諸島種子島、奄美群島与論島から得られたヒレナガユメタチの標本が鹿児島大学総合研究博物館の魚類コレクションから確認された。これらは鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

Hata, H., M. Takayama and H. Motomura. 2016. First records of *Evoxymetopon poeyi* (Perciformes: Trichiuridae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 42: 321–325.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

材料と方法

計数・計測方法は崎山ほか (2011) にしたがった。標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された鹿児島県産の3標本 (KAUM-I. 4394, 63216, 73015) のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り。KAUM—鹿児島大学総合研究博物館；SNFR—西海区水産研究所；WMNH-PIS-WW—和歌山県立自然博物館池田魚類コレクション；YCM—横須賀市自然・人文博物館。なお、ユメタチモドキに適用すべき学名は中坊・土居内 (2013) にしたがって、*Evoxymetopon taeniatum* Gill, 1863 とした。

結果と考察

Evoxymetopon poeyi Günther, 1887

ヒレナガユメタチ (Fig. 1; Table 1)

標本 3 個体 (体長 972.0–1831.0 mm) : KAUM-I. 4394, 体長 1831.0 mm, 与論島近海, 2007 年 6 月 26 日, 鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入, 本村浩之; KAUM-I. 63216, 体長 972.0 mm, 鹿児島県種子島北方大隅海峡 (31°53'N, 130°47'E) 水深 110 m, 2014 年 9 月 1 日, 釣り (種子島漁業協同組合にて購入), 高山真由美; KAUM-I. 73015, 体長 1410.0 mm, 鹿児島湾湾口



Fig. 1. Fresh specimens of *Evoxymetopon poeyi*. A: KAUM-I. 4394, 1831.0 mm standard length (SL), Yoron-jima island, Amami Islands, Kagoshima, Japan; B: KAUM-I. 63216, 972.0 mm SL, Tanega-shima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan; C: KAUM-I. 73015, 1410.0 mm SL, Kagoshima Bay, Kagoshima, Japan.

部（指宿市山川町・佐多岬間），水深約 100 m，2015 年 5 月 23 日，釣り（鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入），畑 晴陵。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は著しく細長く，リボン状を呈し，強く側扁する。体背縁は下顎先端から背鰭起部前方にかけて急に上昇し，背鰭基部では直線状となるが，背鰭基底後部から尾鰭基底にかけて緩やかに下降する。体腹縁はほぼ直線状であるが，臀鰭基底後部から尾鰭基底にかけて緩やかに上昇する。背鰭起部は鰓蓋後縁よりも前方，眼の後端よりも後方に位置する。背鰭第 1 棘は著しく伸長し，強く側扁し，板状を呈する。背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上。背鰭の最後の軟条は体と鰭膜でつながる。胸鰭基底上端は背鰭第 4-6 軟条基部直上に位置し，基底下端は背鰭第 6-7

軟条起部直下に位置する。胸鰭の前縁と後縁は直線状を呈し，胸鰭上縁は大きく下方に凹む。胸鰭後端は尖る。腹鰭起部は背鰭第 8-9 軟条基部直下に位置する。腹鰭は背腹方向に著しく薄い円盤状で，その後縁は滑らか。左右の腹鰭は互いに近接する。臀鰭起部は背鰭 34-35 軟条基部直下に位置する。臀鰭の最後の軟条は体と鰭膜でつながる。臀鰭起部は背鰭第 34 または 35 軟条起部直下に位置する。臀鰭第 1 棘は背腹方向に著しく薄い円盤状で，その後縁は滑らか。尾鰭は二叉型で，僅かに湾入する。肛門は臀鰭起部前方に位置し，前後方向に長い楕円形。鰓蓋と前鰓蓋骨後縁はともに円滑。前鰓蓋骨は皮下に埋没する。眼と瞳孔はともに正円形。眼は小さく，頭長は眼径の 5.54-5.75 倍。眼隔域は著しく隆起し，冠状隆起を形成する。鰓耙は短い針状で，先端は尖る。擬

鰓を有する。鼻孔は1対で背腹方向に長い裂孔状を呈し、眼の前方に位置する。吻端は著しく尖り、下顎は上顎よりも前方に突出する。上顎後端は鼻孔後端直下よりも後方、眼の前縁よりも前方に達する。口は端位で、口裂は下顎先端から上顎後端にかけて上方に凸の弧を描く。上顎先端には倒すことのできない3本（KAUM-I. 63216のみ6本）の牙状歯があり、上顎側部と口蓋骨には鋭い円錐歯が1列に並ぶ。鋤骨は無歯。下顎の前部には1対の鋭い牙状歯をそなえ、その周辺には上顎先端の牙状歯が収納できる溝がある。下顎の側部には鋭い円錐歯が1列に並ぶ。舌は前後方向に細長く、その上面には微小な歯が密生する。側線は完全で、

鰓蓋上部後方から尾鰭基底にかけてほぼ直走する。

色彩 生鮮時の色彩 一 体、腹鰭、および臀鰭第1棘は一樣に明るい銀白色、背鰭、臀鰭および胸鰭の軟条と鰭膜はともに白色半透明。背鰭第1棘は薄墨色。尾鰭の基底部付近は黒色で、各軟条は暗い灰色を呈し、鰭膜は白色半透明。瞳孔は青みがかった黒色で、虹彩は金色がかった銀色。

固定後の色彩 一 体側は一樣に鈍い銀色となる。各鰭の棘条と軟条は乳白色となる。

分布 日本国外では台湾東港とモーリシャスからのみ知られている（Günther, 1887; Nakamura and Parin, 1993; 中坊・土居内, 2013; Chiang et

Table 1. Counts and proportional measurements of specimens of *Evoxymetopon poeyi* from Kagoshima Prefecture, Japan.

	KAUM-I. 63216 Tanega-shima island	KAUM-I. 73015 Kagoshima Bay	KAUM-I. 4394 Yoron-jima island
Standard length (SL; mm)	972.0	1410.0	1831.0
Counts			
Dorsal-fin elements	91	92	92
Pectoral-fin rays	12	12	12
Pelvic-fin rays	1	1	1
External anal-fin rays	18	18	17
Caudal-fin rays	8 + 7	8 + 7	8 + 7
Measurements (% of SL)			
Total length	103.1	102.4	102.7
Pre-anus length	49.2	50.8	51.3
Head length	12.4	12.0	11.7
Snout length	4.5	4.4	4.4
Postorbital length	5.5	5.6	5.3
Preopercle length	1.8	1.9	1.7
Upper-jaw length	4.4	4.2	4.0
Body depth at pectoral-fin base	7.5	7.6	7.3
Body width at pectoral-fin base	1.6	1.3	1.9
Body depth at anus	6.6	6.8	6.4
Body width at anus	1.9	1.4	1.2
First dorsal-fin spine length	13.9	9.2	damaged
Pre-dorsal-fin length	9.0	8.9	8.6
Dorsal-fin base length	91.8	91.5	91.8
Orbit diameter	2.1	2.1	2.1
Suborbital width	0.9	0.8	0.8
Interorbital width	1.8	1.7	1.6
Depth above lateral line at anus	3.6	3.7	3.4
Depth below lateral line at anus	3.1	3.1	3.0
Pre-pectoral-fin length	13.5	12.8	12.3
Pectoral-fin base length	1.2	1.2	1.2
Pectoral-fin length	5.8	5.5	damaged
Pre-pelvic-fin length	16.6	16.5	16.2
Pelvic-fin length	1.3	0.9	damaged
Pre-anal-fin length	46.7	50.1	52.0
Anal-fin base length	50.0	47.4	47.0
Caudal-peduncle depth	0.4	0.4	0.4
Caudal-peduncle length	1.1	1.3	1.8
Tail length	51.2	49.2	49.0

al., 2014.). 国内では八丈島, 千葉県館山市沖, 静岡県御前崎市沖, 和歌山県, 徳島県室戸岬沖, 沖縄島近海, 東シナ海大陸斜面上部域, 九州一パラオ海嶺, (Abe and Asai, 1975; Shinohara et al., 2005; 山田・工藤, 2012; 中坊・土居内, 2013; 池田・中坊, 2015), および鹿児島県の鹿児島湾湾口部, 大隅海峡, 奄美群島与論島近海(本研究)から報告がある。

備考 鹿児島県産の標本は二叉型の尾鰭を有すること, 円盤状の腹鰭と臀鰭棘条を有すること, 背鰭条数が91-92であることなどが Nakamura and Parin (1993) や Fricke et al. (2014) の定義した *Evoxytmetopon* 属の特徴と一致した。また第1背鰭棘が伸長すること, 頭長が眼径の5.54-5.75倍であること, 頭部背縁が吻端から背鰭前方にかけて急に上昇すること, 眼隔域が隆起すること, 鼻孔が裂孔状であることなどが, Nakamura and Parin (1993) や Chakraborty et al. (2006), 中坊・土居内 (2013), Fricke et al. (2014) の報告した *E. poeyi* の標徴とよく一致したため, 本種と同定された。本種は第1背鰭棘が伸長することなどで沖縄島や奄美群島与論島近海 (Motomura, 2016) からのみ知られるヒレナガオオユメタチ *E. macrophthalmum* と類似するが, ヒレナガユメタチは頭長が眼径の5.5-5.8倍であること(ヒレナガオオユメタチでは4.5倍)や頭部背縁が吻端から背鰭起部前方にかけて急に上昇すること(頭部背縁は緩やかに弧を描く), 眼隔域が隆起すること(隆起しない)などから識別される (Chakraborty et al., 2006; 中坊・土居内, 2013)。なお, 外見上みることのできる臀鰭軟条数は中村 (1982) や中坊・土居内 (2013), Fricke et al. (2014) では20とされているが, 鹿児島県産標本では17または18であった。しかし, 本種と同じユメタチモドキ属魚類であるユメタチモドキにおいて, 臀鰭軟条数の変異幅が大きいこと(18-51)が報告されており(崎山ほか, 2011; 畑ほか, 2015), ヒレナガユメタチにみられた臀鰭軟条数の差異は種内変異と判断した。

なお, 記載標本の上顎先端に生えている牙状歯の数は, KAUM-I. 63216のみ6本であったの

に対し, 他の2標本は3本であり, 違いがみられた。しかし, 中村 (1982) はヒレナガユメタチが3対の牙状歯を上顎先端に有し, そのうち3本はしばしば脱落することを報告しているほか, 山田ほか (2007) もユメタチモドキに関して, 上顎前部の強大な歯の数の3-5本の変異がみられることを報告している。したがって, 本研究において, 記載標本における上顎先端の牙状歯の数の違いは種内変異と判断した。

ヒレナガユメタチを日本から初めて報告したのは具志堅 (1972) である。彼は沖縄県から得られた本種を“ユメタチモドキの1種 *Evoxytmetopon poeyi*”として報告した。その後 Abe and Asai (1975) は徳島県室戸岬沖でたて網によって漁獲され, 東京都中央卸売市場に水揚げされた全長1530 mmの本種を報告し, 和名ヒレナガユメタチを提唱した(中村, 1982)と同時に, 写真に基づき八丈島近海産の本種を報告した。中村 (1982) は九州一パラオ海嶺から得られた本種10個体(体長1466-1845 mm)を報告するとともに, 本種がハダカイワシ類, ヨコエソ類, ムネエソ類, ホウライエソ類, およびホテイエソ類などの魚類とイカ類を主な餌とすることを報告した。山田ほか (2007) は東シナ海から得られたヒレナガユメタチ2個体(SNFR 1405, 1406)を報告した。長谷川 (2011) は静岡県御前崎市南方金洲から得られた全長120 cm, 体重1.5 kgのヒレナガユメタチ1個体を報告し, 山田・工藤 (2012) は千葉県館山市布良瀬の水深75 mから釣獲された体長1430 mmの1個体(YCM-P 44938)を報告した。池田・中坊 (2015) は和歌山県西牟婁郡白浜町沖の水深140 mから釣獲された体長1.11 mの本種1個体[WNMH-PIS-WW 22004 (1)]と, 紀伊水道の水深175 mから底引き網によって得られた体長1.34 mの1個体[WNMH-PIS-WW 22004 (2)]を報告した。紀伊民報 (2015) は和歌山県白浜町椿沖の水深120 m付近から釣獲された全長1.1 mのヒレナガユメタチ1個体を報告した。

したがって, これまで知られていた国内におけるヒレナガユメタチの分布は「分布」の項で記述したとおりであり, 記載標本は鹿児島県におけ

る本種の標本に基づく初めての記録となる。ヒレナガユメタチの鹿児島県での採集記録は、これまでの国内における本種の分布の空白域を埋めるものであり、本種が千葉県から沖縄県にかけて連続的に広く分布することを示唆する。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の採集には種子島漁業協同組合関係者の皆さま、田中積氏（田中水産）および鹿児島市中央卸売市場魚類市場関係者の皆さまには多大なご協力を頂いた。原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の作成・登録作業などを手伝って頂いた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金(28-745)、JSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性プロジェクト）学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Abe, T. and Asai, M. 1975. Records of *Evoxytmetopon poeyi* (Günther) from Japan. *UO*, 25: 1–3.
- Chakraborty, A., Yoshino, T. and Iwatsuki, Y. 2006. A new species of scabbardfish, *Evoxytmetopon macrophthalmus* (Scombroidei: Trichiuridae), from Okinawa, Japan. *Ichthyological Research*, 53 (2): 137–142.
- Chiang, W.-C., Lin, P.-L., Chen, W.-Y. and Liu, D.-C. 2014. Marine fishes in eastern Taiwan. Fisheries Research Institute, Keelung. 337 pp.
- Fricke, R., Golani, D. and Appelbaum-Golani, B. 2014. *Evoxytmetopon moricheni*, a new cutlassfish from the northern Red Sea (Teleostei: Trichiuridae). *Ichthyological Research*, 61 (3): 293–297.
- Günther, A. 1887. Report on the deep-sea fishes collected by H. M. S. Challenger during the years 1873–1876. Report on the Scientific Results of the Voyage of H. M. S. Challenger, 22 (pt. 57): i–lxv + 1–268, pls. 1–66.
- 具志堅宗弘. 1972. 原色沖縄の魚. 琉球水産協会事務局, 那覇. 247 pp.
- 長谷川雅俊. 2011. 見慣れぬ魚の正体は? 静岡県水産技術研究所広報誌碧水, 134: 9.
- 畑 晴陵・原口百合子・本村浩之. 2015. 鹿児島湾から得られたタチウオ科魚類ユメタチモドキ *Evoxytmetopon taeniatum*. *Nature of Kagoshima*, 41: 157–160.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 紀伊民報. 2015. 珍しい深海魚「ヒレナガユメタチ」白浜町椿沖で捕獲. 2015年7月29日.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H. 2016. The ichthyofauna of Yoron-jima Island in the southern extremity of the Amami Islands, Japan, including comparisons with similar nearby regions. Pp. 71–78. In Kawai, K., Terada, R. and Kuwamura, S. (eds.) *The Amami Islands: Culture, Society, Industry and Nature*. Hokuto Shobou, Kyoto.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013. タチウオ科. Pp. 1644–1647, 2221–2224. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中村 泉. 1982. ヒレナガユメタチ *Evoxytmetopon poeyi* Günther. Pp. 266–267, 391. 岡村 収・尼岡邦夫. 三谷文夫(編). 九州—パラオ海嶺ならびに土佐湾の魚類. 日本水産資源保護協会, 東京.
- Nakamura, I. and Parin, N. 1993. FAO species catalogue. Snake mackerels and cutlassfishes of the world (families Gempylidae and Trichiuridae). FAO Fisheries Synopsis, 125 (15): i–viii + 1–136.
- 崎山直夫・瀬能 宏・御宿昭彦・神応義夫・伊藤寿茂. 2011. 相模湾初記録のナルトビエイ・ヒメイトマキエイ(エイ目トビエイ科), および稀種ユメタチモドキ(スズキ目タチウオ科)の同湾からの確実な記録について. 神奈川県自然誌資料, 32: 101–108.
- Shinohara, G., Sato, T., Aonuma, Y., Horikawa, H., Matsuura, K., Nakabo, T. and Sato, K. 2005. Annotated checklist of deep-sea fishes from the waters around the Ryukyu Islands, Japan. *National Science Museum Monographs*, 29: 385–452.
- 山田和彦・工藤孝浩. 2012. 三崎魚市場に水揚げされた魚類—XVII. 神奈川自然誌資料, 33: 113–116.
- 山田梅芳・時村宗治・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. 1262 pp.